

令和4年度第2回 千葉市史跡保存整備委員会加曽利貝塚調査研究部会
議 事 録

1 日 時 令和5年2月8日(水) 14時30分～16時00分

2 場 所 千葉市立加曽利貝塚博物館

3 出席者 【委員】

谷口部会長、佐々木副部会長、設楽委員

【オブザーバー】

千葉県教育庁教育振興部文化財課

松浦指定文化財班文化財主事、岡山埋蔵文化財班文化財主事

【事務局】

(文化財課) 佐久間課長、横山課長補佐、森本主査

(加曽利貝塚博物館) 神野館長、長原主査

(埋蔵文化財調査センター) 西野所長、松田主任主事

4 報告

(1) 16次調査(令和4年度)の発掘調査について

(2) 14次調査(平成29年度～令和元年度)出土品整理について

5 議題

(1) 令和5年度の発掘調査計画について

6 議事の概要

(1) 16次調査(令和4年度)の発掘調査について

令和4年度の発掘調査成果について報告し、委員からの質疑に対して回答した。

(2) 14次調査(平成29年度～令和元年度)出土品整理について

令和4年度の整理作業の進捗状況を報告するとともに、前回部会で指摘を受けた発掘調査報告書の目次案について改定案を示し、報告書の構成について改めて検討を行った。自然科学分析の章・節名を一貫性・具体性を持たせた記載に見直すこと、自然科学分析による成果を報告書総括に反映させることなどの意見があり、報告書の目次・構成・内容に反映することとした。

(3) 令和5年度の発掘調査計画について

令和5年度の発掘調査計画について報告し、委員からの質疑に対して回答した。保存を目的とした低地部分の調査について、ボーリング調査等により堆積物や堆積年代を事前に把握する必要があるとの意見があり、当該部分の見直しを条件に承認を得た。

7 会議経過

【開会】

(事務局：横山課長補佐)

ただいまより、令和4年度第2回千葉市史跡保存整備委員会加曽利貝塚調査研究部会を開催いたします。私は本日の進行役を務めます文化財課の横山でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

議事に入ります前に、本日の会議についてご説明いたします。本委員会は本市の情報公開条例に基づき、公開といたします。傍聴人の方はお手元にお配りした傍聴要領をご確認の上、お守りいただきますよう、お願い申し上げます。

本日の会議につきましては、委員全員のご出席をいただいておりますので、千葉市史跡保存整備委員会設置条例第7条第9項で準用する第5条第2項により、会議は成立しておりますことをご報告申し上げます。議事録は事務局が作成し、部会長の承認によって確定いたします。

なお、本日はオブザーバーとして、千葉県教育庁文化財課より、指定文化財班 文化財主事 松浦様、埋蔵文化財班 文化財主事 岡山様にご出席いただいております。

それでは、これより会議に入らせていただきます。ここからは谷口部会長に進行をお願いしたいと存じます。それでは谷口部会長よろしく願いいたします。

(谷口部会長)

それでは会議を進行いたします。

まずは報告事項が2つございます。それぞれについて、事務局より説明をお願いします。

【報告（1）16次調査（令和4年度）の発掘調査について】

〔事務局説明：報告1 16次調査（令和4年度）の発掘調査について 説明。〕

【報告（2）14次調査（平成29年度～令和元年度）出土品整理について】

〔事務局説明：報告2 14次調査（平成29～令和元年度）出土品整理について 説明。〕

(谷口部会長)

ただいまの事務局の説明を受けまして、ご質問等がありますか。

(佐々木委員)

年代測定の試料は何を測定されましたか？炭化物でしょうか。

(事務局：松田主任主事)

炭化物ではなくて、土自体を測りました。

(佐々木副部会長)

土ですと、年代値が新しくなってしまうのは、台地上の遺跡ではよくあることだと思います。地上からの根の影響や雨水の影響を受けますので。土で測るとすると、ボーリングコアのように一回の堆積が保存されているような状態であれば良いのですが、加曽利貝塚のように攪乱が起きるような場所で、土で測ると乱れた年代値が出てしまう可能性があります。今

回の年代値を信頼して記載するのはどうかなと思うのですが、炭化物では年代測定されたのですか？

(事務局：松田主任主事)

炭化物が含まれるところで土壌サンプルを採取しました。

(佐々木副部長)

(炭化物の) 洗い出しはされたのですか？

(事務局：松田主任主事)

土自体の測定をお願いしたので、洗い出しはしていません。肉眼で視認できる大きな炭化物は入っていませんでした。

(佐々木副部長)

(年代測定を実施したのは) 委託会社ですか？

(事務局：松田主任主事)

はい、委託しています。

(佐々木副部長)

普通に「土で測ってください」と言うと、分析会社は洗い出しをせずに土で測ってしまうと思いますが、洗い出してあれば炭化物で測っている可能性もあります。

(事務局：松田主任主事)

洗い出しはしていませんね。

(佐々木副部長)

そうするとやはり受託側としては土で測ってと言われてしまうと土で測ると思います。

はい、わかりました。

(谷口部長)

他にございますか。

(設楽委員)

A Tですけれども、一番北の小さなトレンチ、ここで見つかっていて、それがどこかで切れてなくなっていくわけですね。どのあたりでなくなっているのでしょうか。

(事務局：松田主任主事)

報告資料2の深掘1ではA Tが見つかっていますが、深掘2ではA Tはなくなっています。

(設楽委員)

A Tはほぼ水平なんですか。

(事務局：松田主任主事)

そうですね。

(設楽委員)

深掘1のA Tから縄文時代の地表面までは、どれくらいの高低差があるのでしょうか。

(事務局：松田主任主事)

A Tの直上が縄文時代の包含層です。

(設楽委員)

A Tまでの深さはそれぞれどのくらいでしょうか。

(事務局：松田主任主事)

ソフトロームがどれくらい残っているかにもよります。本来、千葉市内ではソフトロームの層厚は 40 cm くらいありますが、一番北側の小さいトレンチでは、ソフトロームは層厚 5 cm ～10 cm と薄く、A T 層までは深さ 50 cm ～60 cm、仮にソフトロームが残っていたとすると、さらに 30 cm 程深くなります。

(設楽委員)

旧Ⅰトレンチと旧Ⅱトレンチが交差するあたりが環状の中心となって、そのあたりはもう少し深いわけですね。

(事務局：松田主任主事)

そこは深いですね。深掘 1 からさらに 60 cm 程深いです。等高線にして 3 本程度下がります。

(設楽委員)

そうするとトータルですと、90 cm と 60 cm で 1 m 50 cm くらいですね。わかりました。

説明の順に聞いていきます。65 号竪穴住居跡は中期末から後期初頭。前にも見学させてもらったときに話題になったと思うんですけども石棒の破片が結構たくさん出ているようですが、くつつくんですか。

(事務局：松田主任主事)

全部ではありませんが破片がくつつくものもあります。

(設楽委員)

焼けているんですか？

(事務局：松田主任主事)

黒く変色したものもあります。

(設楽委員)

復元可能な石棒は出てきましたか？

(事務局：松田主任主事)

それはわかりません。

(設楽委員)

それも含めて石棒の接合（ができるかどうか）、焼けているのかどうか、散らばっているのかどうか、そういったことも把握して報告してもらえればよろしいと思います。

次に、掘立柱建物ですね。この時期だと縄文晩期の新潟の青田遺跡の集落ではたくさん出ていて、それ（掘立柱建物）だけで構成される例もありますよね。千葉市では亀甲形の掘立柱建物が独立してあると。関東では珍しいと思います。類型を探してもらって、どういう変化をたどっているのか、どういう特徴があるのか押さえてもらえばいいですね。

今年度の調査はこれで終わりですけども、この後、北貝塚に移って、さらに低地の調査が目白押しになってくるわけですが、いずれまた（南貝塚の）再調査がありますので、更に踏み込んだ調査が計画されるまで、博物館が開館してからですね、そうなったらぜひやっぱり（掘立柱建物の）広がり（捉えてもらいたい）。というのは、さっきも説明にあったように等高線に沿って長軸があるわけですね。逆に言えば短軸方向が真ん中に向いている。非常に規則性がある。南側のトレンチでたくさん見つかった掘立柱に匹敵する深さがあるとい

うことですし。環状に廻るかどうかはわかりませんが。

貝層の黒色土というのは、貝塚の上に載っているわけですから、晩期になると貝塚自体をほとんど作っていないわけですね。だから、周りにマウンドがあって、それを意識しながら内側に居住したり、施設を設けたりして、どんどん狭まってくるわけですね。でもやっぱり環状っていうのを意識している可能性がある。晩期のどのくらいの時期になるかっていうのも、今の状況ではわかりませんが、少なくとも晩期だっていうことであればね。真ん中の中央窪地、黒色土が堆積していることで、貝塚でも問題になったということだね、単なる捨て場くらいにしか当時は認識がなかったですけども。集落に付随するものとして、墓域があるかもしれませんよね。ただ、新たな計画（今回の発掘調査）で証拠も見つかったということで、重要な成果として（次の調査に繋げていただき）、いずれはさらに詳しく調査をしていくということで考えてもらえればよいと思います。

（谷口部会長）

私からもちょっとお聞きしたいことがあります。南貝塚の形成が始まったのは、だいたい堀之内1式と言っているところでありまして、それはよくわかりました。もう1つは南貝塚の形成が具体的にはいつ終わっていくのかということですね。そこはどうでしょうか。

（事務局：松田主任主事）

今回、貝層から出土したもので確実なものは、安行1式があります。安行2式があるかないかは、南貝塚では微妙なところではあるのですが、貝層から出土していたかどうかは確認しないといけません。安行1式は確実にあったと思います。晩期の遺物は貝層には入っていません。

（谷口部会長）

貝塚の形成だけでなく、やはり盛土のような行為もあるわけですから、貝塚と盛土を含めてこの南貝塚の造営がいつまで続いていたのか、いつ終わっているのか。それはとても重要な点なので、今後も整理作業を進めて出土した土器の型式を丁寧に見ていただくということと、土層堆積の環境を押さえていただいて、いつ終わるのかということをはっきりと示していきたいと思いますね。現時点では一番新しい型式は何でしょうか。

（事務局：松田主任主事）

黒色土ではなく、暗褐色土の盛土から出ているもので一番新しいものは安行2式ですね。

（谷口部会長）

晩期は？

（事務局：松田主任主事）

数は少ないですが、安行3b式です。

（谷口部会長）

安行3b式までは南貝塚の造営が続いているんですね。それ以降のものは見つかっていませんか。

（事務局：松田主任主事）

（これ以降のものは）見つかっていません。

（谷口部会長）

前にも指摘したと思いますけれども、加曽利貝塚が調査された頃は貝塚という認識で遺跡が捉えられていた訳ですけども、今はやはり貝塚も環状の盛土遺構も含めて、晩期まで続いていくような、そういう遺跡だと思うんですよね。他の貝塚との比較というのももちろん必要だと思うんですけども、貝塚を必ずしも伴っていないような環状盛土遺構とか、あとは中央窪地型環状集落という言い方もありますけれども、そういったものも含めて比較をして、この遺跡の性格を考えていくというのが願われているのではないかと、それが1つの課題になるかと思います。いかがでしょうか。

(事務局：松田主任主事)

ご指摘の点について、他の事例も見ながら進めていきたいと思います。

(谷口部会長)

報告資料3の目次について、前回は2章と3章について議論されましたが、2章については「遺構と出土土器」という土器だけが取り出されていますね。遺構から出土したものは土器だけではないわけですが、そこはこのままの構成で、基本的にはいくのでしょうか。

(事務局：松田主任主事)

今回については、これまでの話し合いで決まったものですから、これからの組み直しはできないです。ただ当然、石器や石斧でどれが何号住居から出ているというのは書いてありますし、遺構の説明で石剣が出ているとか、何が出ているとかは書いてあります。それが石器の方を見ると、対応するようには作ってありまして、出土状況が全く書いていないということではなく、出土状況は遺構の方に書いてあります。遺物だけ見づらいなのですが。

(設楽委員)

オーソドックスなのは遺構とその出土遺物、貝層ですかね。包含層とその出土遺物。包含層の中に土器、石器っていうのが並ぶんですかね。

(谷口部会長)

3章の「自然科学分析」というタイトルについて、佐々木副部会長はどうでしょう。

(佐々木副部会長)

違和感があります。

(谷口部会長)

よくこういう形で「自然科学分析」って報告書の章のタイトルとして使われているんですけども、現在の研究状況では、先史考古学も自然科学と考古学も非常に連携していろいろな研究を進めているわけですよね。

(佐々木副部会長)

そうですね。

(谷口部会長)

2章が純粋に考古学の調査研究成果ですよね。3章はちょっと違う。現実的にはいろいろ分析したり、委託して進めているということではあるだろうけれど、両方含めて考古学だと思うんですよね。もうちょっとタイトルに工夫が必要ではないかと感じます。私たちの大学の報告書では自然科学分析という言い方はしないで、考古科学とか考古学と自然科学などとしています。

この報告書はこの形で編集が進んでしまっているということですから、今から変えるのは大変かもしれませんが、報告書の変更方針、次の報告書の編集方針を考えるとときにはよく議論されていかれたらどうでしょうか。

（佐々木副部長）

それに関連してよろしいですか。自然科学分析の節ですが、人骨、動物遺体、植物遺体、石器石材・・・とありますが、第5節「土壌・鉱物分析」は「分析」が付き、第6節「放射性炭素年代測定」は「測定」が付く。さらに、見出しについても、貝類、魚類という種類で分ける節と第5節のように「分析」が付く節があります。これは統一された方がよいかと思います。タイトルだけの問題だったら再検討も可能かと思います。例えば節は種別にして、見出しには「同定」か「分析」をつけるとか。3章の頭に分析と付いてるのでどうなのかなとは思いましたけど。

もっと細かいことですが、第3節の3、「付着圧痕」の「付着」は必要ないと思います。圧痕は付着していないので、「土器圧痕分析」もしくは「土器圧痕」とか、分析を使うなら圧痕分析ですし、種別でいくなら土器圧痕かなと思いました。また「土壌の土壌分析」という言い方も違和感があります。土壌の具体的な分析法があると思うので、土壌で何をやったのか、土壌の考古学的な観察も含めて、様々な事柄があると思います。具体性もなく、そこだけぼんやりした感じになっているなど。タイトルだけの問題ですので、もし変更可能でしたらご検討いただけないでしょうか。

（谷口部長）

私たちが今報告書を作っていて、同様のことを問題にしているんですが、いろいろな研究機関に分析を委託して、出てきた報告をそのまま掲載してしまうとこうなってしまう。編集者は松田さんなので、編集者の方で編集し直して、タイトルを変えたいということは分析機関の方に説明をすれば全然問題なく変更できると思いますね。一冊の本として編集して盛り込んでいく際には、こういう点を編集作業でやるべきじゃないでしょうか。

（事務局：松田主任主事）

節と見出しの名称について、見直してみたいと思います。土壌分析は非常にいろんな分析が含まれているので、それを総括する何らかの名称があるかどうか確認してみたいと思います。

（設楽委員）

章・節、見出しの整合性をとるようにと佐々木副部長から指摘がありましたように、まだできると思います。それは進めていただければ良いと思います。さらに言いますと自然科学分析、さっきオーソドックスな報告書と言いましたが、まさにこれがオーソドックスなスタイルですよ。良い悪いは別ですよ。良くないのは自然科学的な分析をそのまま掲載して、後の考察部分に全く反映されていないというのはよく見かけるんですよ。ここは原稿をまとめるのが大変かと思いますが、第1章、第2章で明らかになった人間活動と第3章の環境との関わりですよ。これを是非「成果のまとめ」で反映させてもらえればと思います。最後の方に生産活動というのがありますが、これが中心になるんでしょうが、生産だけでなく人間活動もあると思いますから、まとめて総括してもらえればと思います。

(谷口部会長)

よろしいでしょうか。

それでは続いて、議題（１）令和５年度の発掘調査計画について、事務局よりお願いします。

【議題（１）令和５年度の発掘調査計画について】

〔事務局説明：議題１ 令和５年度の発掘調査計画について 説明。〕

(谷口部会長)

ただいまの事務局の説明を受けまして、ご質問等がありますか。

(佐々木副部会長)

よろしいですか。３番の低地部分の調査ですけれども、今までの経緯と、これまでどういった調査をされたうえで、この低地部分を狙うのかを教えてください。

(事務局：西野所長)

総括報告書以前の教育委員会の報告書の中に、低地調査の記載があるのですが、その部分でボーリング調査をした記録があります。場所は坂月川の加曽利貝塚側（西岸）、ここでは縄文時代の層があるということがわかっています。そのくらいの情報しかないですね。

(佐々木副部会長)

それでしたら、すごくリスクだと思うんですね。確認調査が入るには。堆積物が削剥されて全くななくなっているという可能性もあります。低地は１ｍ異なるだけで感じが違うということもありますので。真福寺貝塚では環状の周りの低地を、今年度から本格的に面で確認調査をする予定ですけれども、その前に３か年度ボーリング調査や検土杖による堆積層の確認をして、年代も確実に縄文時代晩期を狙うために、後晩期の年代の堆積物があるということを確認した上で、それでも２つのトレンチを選んでさらに審議して、矢板を打って調査に進んでいます。いきなり確認調査 20 ㎡というのは、危険ではないでしょうか。

(事務局：西野所長)

そうですね。例えば壊れてしまうということでしょうか。

(佐々木副部会長)

壊れてしまうというよりは、何もないところを掘ってしまったたり、あるいは後世の堆積物が埋積しているところを掘ってしまったりするなどが考えられます。低地は時間もお金もかかりますので、目標を確実に捉える必要があります。

前年度にボーリング調査、あるいは検土杖による堆積物の確認をして少なくとも年代は抑えておかないと危険かなと思います。特に後晩期はあるかもしれませんが、中期を狙うのであれば、他の盛土がある中期の遺跡でかなり失敗例があります。中期は堆積物の削剥時期のため、削剥されて全く残っていない場合もあります。神奈川県勝坂遺跡もそうです。勝坂遺跡も確認調査に入る前にボーリング調査を３か年やっけて、堆積が最も良いところを面で開けて、３cmとか５cm厚さ中期の層を捉えています。狙ったからこそ捉えられたのであって、勝坂遺跡では１２か所くらいボーリング調査をしていると思いますけど、中期後半の

堆積物があつたのはそのうち2か所でした。同じことが加曽利貝塚でも起きる可能性は十分あると思いますので、事前にボーリング調査と検土杖による堆積物の確認や年代の確認をした方がよいのではないかと考えますが、いかがでしょうか。

(事務局：西野所長)

ありがとうございます。検討させていただきたいと思います。

(佐々木副部会長)

例としては勝坂遺跡の例や、さいたま市さんがやっている真福寺貝塚の低地部の調査の方法が参考になるかと思いますので聞いてみてはいかがでしょうか。

(谷口部会長)

真福寺は3か年でボーリング調査をやっている？

(佐々木副部会長)

真福寺も3か年でやっています。

(谷口部会長)

面積が結構広いので、どこを狙うかというのもありますね。例えば令和5年度に予定している20 m²×3か所の確認調査の代わりにボーリング調査を充てると仮にしたとして1年でこの面積はどうでしょうか。

(佐々木副部会長)

1か所のボーリング自体は、委託業者が2日間程度でできると思います。ただ、低地の場合は通常のボーリングではなく、堆積物をシールパックしてくれるボーリング業者でないといけません。普通のボーリングの保管箱に入れてしまうと堆積物が全部乾燥してしまいますので。シールパックした保湿された堆積物で、後から花粉分析などもできるようにしてもらえると、後晩期の環境史が捉えられます。真福寺貝塚では、堆積環境が良いところを狙うと、大洞A'式期の堆積物も出てきまして、台地上の遺跡ではほとんど捉えられていない時期ですが、環境史を繋ぐうえでの重要な堆積物が得られています。

過去の調査の深度は何mですか？

(事務局：西野所長)

1 mはなかったですね。

(佐々木副部会長)

1 mなければ3 mの検土杖で十分です。さいたま市さんも真福寺貝塚の低地を等間隔ですっと検土杖で調べて、このあたりがボーリングによさそうだという当たりをつけていただいた上で、委員会で審議して場所を決めて、まずはボーリングをやろうということでボーリング調査を実施しました。分析結果や年代が出て、じゃあ次はここをやって最終的に面で掘ろうということになっています。そのくらいはやった方がよいのではないかと思います。

(谷口部会長)

市も個別の計画を立てられて、いろいろ激論があつたということですが、下宅部遺跡で調査された佐々木さんにせつかく委員に入ってもらって、アドバイスを受けられたんだから、計画案を練り直した方がよいのではないのでしょうか。

(佐々木副部会長)

この地図に過去の調査地点を落としていただくのと、ボーリング調査の柱状図をつけていただくだけでもヒントになると思うのですが。

(谷口部会長)

どうしましょう。それでよろしいですか。

(事務局：西野所長)

また、今後相談しながらやっていきます。

(谷口部会長)

3の部分については再検討ということで。

(事務局：森本主査)

我々ももともと令和5・6年度はどちらかという試掘に近いイメージで考えていたので、そこをもうちょっと慎重にやっていく形でできればと思います。本格的な調査に手を付ける前に、令和5・6年度で準備をしていきたいという考えではあります。

(佐々木副部会長)

20 m²というのは、矢板を打たずに普通にトレンチを掘るのみの予定でしょうか。

(事務局：森本主査)

そのような計画です。

(事務局：西野所長)

(低地の調査を) やったことがある人が1人いるので、その人を中心に計画を検討しました。

(佐々木副部会長)

前にここで調査されたという方ですか。

(事務局：西野所長)

他の遺跡です。

(谷口部会長)

他にご質問はございませんか。

(設楽委員)

まず①について。資料4の北貝塚の「1-2」というところのすぐ上ですね。これが人骨を検出した調査区になるわけですね。次年度の調査区はこれを全部ひっかけるような形で設定されますか。

(事務局：西野所長)

とりあえず、見立てるだけです。

(設楽委員)

もし仮に位置が当たったとすれば？

(事務局：西野所長)

どちらかという翌年度以降に調査をするために、比較的広めに表土を剥いてみたりなどを考えています。

(設楽委員)

いずれにしても3年間の調査の中で人骨が出る範囲は押さえたいですね。

(事務局：西野所長)

そうですね。過去に出ているところ、ある程度位置は決めて進めるということですね。

(設楽委員)

これ、たぶん廃屋墓でしょうね。ごっちゃになって掘り込みが出てくる可能性はないと思いますけど、柱の跡はそれでも精査していくものですよね。

それと貯蔵穴などの遺構の分布を明らかにしていくということですね。3区Cトレンチについては何か所見はあるのでしょうか。

(事務局：西野所長)

あまり細かいことはわからないのですが、この層位のはずはないんじゃないかなと思っています。それだと集中を持たないですし、分布もわからないですね。例えば、真ん中に立っちゃってると思うんですけども、時期が違うのか。そういったところを調査で当たっていかうと思いますが、まだその作業まではできていないです。

(設楽委員)

資料2で1番という区画がありますが、調査の状況によってはまた別の区画を開けるというのも考えていらっしゃるんですね。前回の調査では、貝層の積み重なりで内側は攪乱が多いので、外側をやりましたよね。それで成果があるのであれば、博物館もそういう調査をした方がよいのではと思いました。次々と数が出てくると思いますけどね。

(谷口部会長)

それでは、こちらは審議事項ですので、この案を承認するという手続きが必要なんですよ。議題資料の1の3の部分については調査方針を再検討していただくということで、内容についてはご承認いただけるでしょうか。(委員承認)。「令和5年度の発掘調査計画について」事務局案を修正したうえで承認することにします。本日の案を千葉県史跡保存整備委員会において諮るよう、お願いします。

以上で本日の議題はすべて終了となりますが、他にご意見等はございますか。

(事務局：森本主査)

事務局の方から1点お願いします。今回の会議に先立ちまして、今回皆様にお配りした資料を文化庁の埋蔵文化財部門の斎藤調査官にご覧いただきまして3点コメントを預かっております。来年度も無理のない形で加曽利貝塚進めてくださいというのが1点目です。2点目は14次調査の報告書です。特に総括部分については、委員会の先生方の意見を聞きながら進めてくださいということでした。3点目は関連する調査として説明いたしました柳沢遺跡や玄藤遺跡についても史跡隣接地なので慎重に調査を行ってくださいというコメントがありましたので申し伝えさせていただきます。

(谷口部会長)

わかりました。

(設楽委員)

柳沢・玄藤遺跡についてお尋ねするのを忘れていました。柳沢遺跡は加曽利貝塚の空白の時期を埋める遺跡と伺いましたが、玄藤遺跡の時期はわかっているのでしょうか。

(事務局：西野所長)

玄藤遺跡については、今回の確認調査で、柳沢遺跡と隣接する部分にも遺構がかかっているということがわかっています。

(設楽委員)

同じくらいの時期ですか。

(事務局：西野所長)

同じです。同じ集落（と考えてよいと思います）。遺跡の括り方がどうなのかなと。

(設楽委員)

同じ遺跡かもしれないですね。そうなったらどうするかというのをご検討いただけたら。

(佐々木副部会長)

最後に資料についての確認をお願いします。報告資料に対応する南北セクションは取っていらっしゃるということですね。

(事務局：松田主任主事)

はい、取っています。

(佐々木副部会長)

南北セクションがあると先ほどの等高の問題や堆積の問題などがより理解しやすくなるので次回以降はセクションをつけていただけるとありがたいです。

(事務局：松田主任主事)

膨大なのでこれから繋ぎ合わせていきます。

(佐々木副部会長)

模式図だけでも構いませんし、部分的、あるいはお話しいただく重要なところだけでもあると理解しやすいです。原図でも構いません。堆積の厚さや高低差が理解できると思います。

(谷口部会長)

これを持ちまして本日の議事を終了いたします。それでは進行を事務局へお返しいたします。

【閉会】

(事務局：横山課長補佐)

慎重なご審議いただきまして、ありがとうございます。お忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。以上を持ちまして、令和4年度第2回千葉市史跡保存整備委員会加曽利貝塚調査研究部会を閉会いたします。本日はどうもありがとうございました。

(県文化財課：松浦文化財主事)

委員の皆様、ありがとうございます。事務局の皆様、お疲れ様でした。

概ね聞いていて、令和3年度の調査の内容については前回話していただいたとおりで、進めていただいているということでスケジュールを見ながら、ご指摘のあったところについては修正等検討いただいて進めていただければと思います。

来年度の調査については、貝塚の部分は概ね承認されたのかなと思うのですが、低地の部分については、先生からご指摘あったとおりで、範囲や方向はよく吟味した形で進めてください。文化庁からも同じような指摘がありますので、そのあたりはこちらの方に進め方、先

ほどの検土杖を使った事前の調査も含めて検討の方法をよく再確認していただければと思います。引き続きしっかりと進めていただければと思います。本日はありがとうございました。

(事務局：横山課長補佐)

正確なご助言等いただきました。ありがとうございました。

本日は改めまして、お忙しいところありがとうございました。

——了——